

船橋市地域福祉計画推進委員会引継事項（案）【委員の皆様からのご意見等】

「第4次船橋市地域福祉計画の振り返りと次期計画策定に期待するもの」

①現行の第4次船橋市地域福祉計画について、その記載内容や、これまでの船橋市地域福祉計画推進委員会の協議内容を踏まえ、振り返り、感想、評価できる点やさらなる充実を期待する点等

	委員名	内容
1	大野委員長	重層的支援体制整備事業について、進捗状況を踏まえたうえで、次期計画期間にどこまで整備するかを検討願いたい。
2	大野委員長	さーくるについて、本来業務であるワンストップとそこから派生した支援体制の展開を記載の上、さーくるの拡充が必要かを検討願いたい。
3	府野委員	・地域包括ケアシステムの構築について 地区の課題でもありますが、地域の中で高齢者のフレイル（健康な状態と要介護状態の中間に位置し、身体的機能や認知機能の低下がみられる状態）の方が多くなり、ひとり暮らしの方が増えております。ひきこもりにならない為にも、地区社会福祉協議会・町会・自治会・民生児童委員等、地域が一体となり、地域の協力体制がさらに充実していくことを期待します。
4	府野委員	・子供・子育て支援について 母親が仕事をされる方が増えてきております。子育てしやすい地域になるように、子育て支援に関する取り組みも期待します。
5	齋藤委員	私は、2019年から一般市民として船橋市地域福祉計画推進委員会に参加させていただきました。 定年退職する前は、地域福祉に关心が無く、知識もなく、支援して頂く事もありませんでした。 退職後、町会や民生委員の仕事をするようになり、地域の福祉の現状を知り、多くの課題があると感じ、この委員会に参加させて頂きました。 私なりに、こう在りたい、こうしたいという夢を以っての参加でしたが、行政の地域福祉の理念理想を知った時に、私の夢と全く同一だったので、驚いたり喜んだりしたのを覚えています。

私は、幼年時に事故で父親を亡くし、母一人に育てられました。当時の社会福祉の取組みは弱く、行政や民生委員による支援の記憶は殆どありません。母の収入と親族の支援のみで、3人の兄弟が大学まで教育を受けて、一人前の社会人になる事ができました。私の幼年期と比較すれば、現在の行政や民生委員の福祉の支援の現状は、手厚く心の通ったものになっていて、素晴らしいと思います。

しかし、まだ理念理想とはかけ離れて取り残されている人々は居て、道半ばだと思います。

それどころか、支援を受けている人と、支援を受けていない人の格差が拡大して、新しい差別になっている様にも感じます。

この船橋市地域福祉計画推進委員会の活動を未長く継続して頂き、全ての人々が、明るく楽しく幸せな人生を送れるような社会の実現に向けて、一歩ずつ近づいていって頂きたいと思います。

②次期計画(第5次船橋市地域福祉計画)について、①の内容も踏まえ、期待するものや理念、盛り込む必要があると考える内容等

委員名	内容
1 斎藤委員	<p>「統計的なデータにより特定できる要支援者」(母子家庭、生活保護受給者、障害者、独居高齢者等)は、行政サイドから積極的に支援を行うことができ、手厚い支援が実現しています。</p> <p>「自ら支援を要請できる人々」は、以前は、どこに要請すればよいか判りづらく、窓口で断られて、あきらめてしまう事もありましたが、「断らない相談支援」や「重層的支援体制整備」等の取組みにより、心の通った支援を受けられるようになります。</p> <p>次に取組むべき課題は、「統計的なデータにより特定できない要支援者」「自ら支援を要請できない人々」だと思います。</p> <p>家庭でDVに悩む人、学校や会社でイジメにあっている人、両親が共働きで家事をする子供、家族の介護で疲れ果てる人、相談することができない孤独で不安な人……等、このような人々を「見つけ出して支援する」「自ら支援を要請出来るようにする」ような施策が必要だと思います。</p> <p>又、「私は支援される人」「あなたは支援する人」と区別して人々を分離するのではなく、健康な人も障害がある人も、経済的に豊かな人も日々の生活に忙しい人も生活保護を受ける人も、子供も大人も高齢の人も、誰もが自分のできる範疇で社会に貢献する事ができ、全ての人が互いに支援し支援され合う社会、全ての人が互いに尊敬し尊敬され合う社会、全ての人が互いに心を通い合える社会……を目指したいと思います。</p> <p>どんなに境遇が違っても、信じるものが違っても、人間の生きる「目的」は一緒です。</p> <p>世界が平和で皆が豊かに暮していける社会を創る事であり、その営みを次の世代の人々に受け継いでいく事です。この「目的」を、全ての人々と共有化しなければなりません。</p> <p>ナショナリズム、自国第一主義、分断の社会……世界は全く逆のうねりの中にあります。</p> <p>だからこそ、人間の生きる「目的」を、もう一度、次期計画の最上段に掲げて下さい。</p>